

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 2022年度のCERCとの連携事業について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002001545">https://doi.org/10.57529/0002001545</a>

## 2022年度のCERCとの連携事業について

日本文化研究所では宗教文化教育推進センター（通称CERC）との連携により、宗教文化教育推進のための教材作成に取り組んでいる。以下では、2022年度の教材開発の成果とCERCの活動について報告する。

### （1）宗教文化教育推進のための教材作成について

教材開発に関して、CERCとの共同で宗教文化を学ぶための以下のオンライン教材を既に公開している。①「宗教文化を学ぶための基本書案内」②「世界遺産と宗教文化」③「映画と宗教文化」④「博物館と宗教文化」⑤「宗教文化に係る基本用語クイズ」。

2022年度は、特に②「世界遺産と宗教文化」③「映画と宗教文化」④「博物館と宗教文化」の内容の拡充を図り、データベースへの新規項目の追加のほか、重要な項目に関する解説を執筆、公開した。

②「世界遺産と宗教文化」の教材では、「北海道・北東北の縄文遺跡群」、「グラナダのアルハンブラ宮殿、ヘネラリーフェ離宮、アルバイシン地区」などのページを新規に15件追加したほか、「石窟庵（ソックラム）と仏国寺（ブルグクサ）」に写真を追加した。③「映画と宗教文化」の教材では、「巫女っちゃけん。」、「星の子」、「牛首村」など、近年公開された宗教文化に関連する映画を新たに3件掲載した。④「博物館と宗教文化」の教材では、「日本民藝館」のページを追加した。2022年度時点で②は計190件、③は計217件、④は計176件となった。①、⑤についても情報収集を継続して行っており、次年度以降も

教材の充実を図る。

### （2）CERCの活動について

#### 2-1. 認定試験の実施

CERCでは2022年度、6月12日（日）に第21回、11月20日（日）に第22回の宗教文化士認定試験がZoomを用いたオンライン上で行われた。

第21回試験の受験者は13名、合格者は9名であり、続く第22回試験の受験者は25名、合格者は18名であった。第1回試験からこれまでに457名の宗教文化士が誕生している。

#### 2-2. 新たな受験資格の導入と受験制度の改定

さらなる宗教文化教育の発展を目的とし、2021年度第20回試験よりe-learning教材の学修をもって受験資格に充当するe-learning履修コース（Bコース）が導入されている。「Aコース」では大学・大学院で履修した単位によって受験資格が取得できる一方で、「Bコース」では所定のe-learning教材を履修し修了が認定された場合に受験資格を取得することが可能となる。受験資格取得用のe-learning教材は10科目（総説（必修）、神道、日本仏教、日本のキリスト教、東アジアの宗教、南アジアの宗教・上座部仏教、ユダヤ教・カトリック・オーソドクス、プロテスタント、イスラム教、日本と世界の新しい教団）からなり、総説を含む5科目以上を学習し、復習テストに合格すると受験資格を得ることができる。

大学や学部のカリキュラムやその性格上受験資格を得るのが困難な大学生・大学院生・

社会人にも受験の機会を提供できるようになっており、2022年度の第21回試験では4名が、第22回試験では9名がBコースの受験者であった。

### 2-3. 「宗教文化士の集い」の開催

宗教文化士へのアフターケアとして、CERCでは年に一度を目安に「宗教文化士の集い」を行っている。新型コロナウイルスの流行にともない、2020年度、2021年度はオンライン形式での集いが行われていたが、2022年度は対面とオンラインのハイブリッド形式での開催が企画され、第6回「宗教文化士の集い」として、2023年2月25日（土）に國學院大學を会場に、Zoomによるオンライン参加も可能な形で実施された。

第一部では櫻井義秀氏（北海道大学大学院教授）による講演「宗教リテラシーの低下がカルト問題を拡大する——統一教会問題から考えるべきこと」があり、コメンテーターに後藤絵美氏（東京外国語大学助教）を迎え、参加者を交えた質疑応答の場も設けられた。國學院大學神道文化学部との共催であったことから、第一部には宗教文化士・上級宗教文化士57名のほか、教員16名、國學院大學の学生21名を含めた計101名が参加した。さらに、第二部では宗教文化士・上級宗教文化士と運営委員・連携委員との歓談の場が設けられた。宗教文化士・上級宗教文化士39名を含む、対面・オンライン合わせて計53名の参加があった。

このような「宗教文化士の集い」は、宗教文化士同士の交流を促すだけでなく、資格取得者の実際の声から、資格の役割や必要なアフターケアについて考えるための機会ともなっている。

### 2-4. 更新（上級宗教文化士認定）について

宗教文化士資格は取得から5年間の有効期限が設けられており、本年度は第12回・第13

回認定試験の合格者を対象とした更新の受け付けが行われた。更新のためには、(a) e-learningによる学習、(b) CERC指定の講演会などの聴講とレポート提出、(c) メルマガの記事をもとにしたレポートの提出、(d) 体験に基づくレポートの提出、の4種から1つまたは複数を選び、計3ポイントが認められることが必要となる。更新が認められると、終身資格の「上級宗教文化士」が与えられる。

第12回認定試験での資格取得者は16名で、そのうち10名が更新のための課題を提出し、更新が認められて上級宗教文化士となった。第13回認定試験については15名の資格取得者のうち7名が上級宗教文化士に認定された。2022年度末までに計158名の上級宗教文化士が誕生している。

### 2-5. 宗教文化士および上級宗教文化士へのサポートについて

CERCでは、宗教文化士の資格取得後も宗教文化に関する情報を得るためのサポートの一環として、「CERCメルマガ」を発行している。メルマガでは、宗教文化に関わる最新のニュースを解説とともに紹介するほか、講演会やシンポジウムの情報、CERCの運営委員によるリレーエッセイ、宗教文化に関わる新刊の紹介、宗教文化士の体験レポート、宗教文化士の集いの報告などが掲載されている。2022年度末時点で、43号まで発行された。

また、宗教文化士へのサポートとして、住所やメールアドレスの変更を連絡するためのフォームも提供しており、連絡先変更の円滑な反映と、資格更新の通知やメルマガ配信の際のメール不達の減少につながっている。

（小高絢子）